3-⑦ 宇宙的真理に素直に驚きなさい

<宇宙的真理に素直に驚きなさい>

ー切を更新することのできるあるものを人が受けとろうとするとき、いったい何がとれを咀止するのであろうか? 根本的な原因は誤ったアイデンティティの感覚である。なぜなら人は、おれは善いおれは賢いという想像され

人がその宇宙的求道に寒くのは、彼が彼自身に邪魔して、彼が求めるところの宇宙的な絶対真理の受容を不可能にしてしまうからである。彼は、真理をあるがままに受容するのでなく、真理の方で彼の条件づけられたアイデ

われわれは自己分裂のゆえに、真理を求め、かつ真理を嫌う。

オランダのコレルーという牧師が同国の無神論者バルーク・スピノザの逞しい思想に接するようになった。しかし、スピノザ哲学が自分の考えとは真向から対立するため、スピノザの著作もスピノザその人をも恐れ、敬遠し

人は〃クンダリニ"とよぶ彼の心のおかしな特性のために、高貴な生から彼自身をシャットアウトする。クンダリニ (kundalini) という語は古代サンスクリット語からきたもので、「幻想的想像力で思考する」つ

"クンダリニ"は無害のまま消えてしまう。

あなた自身を改革するための新しいアイディアを拒否したい気持が湧いたら、「わたしのいまのアハディアはどうなんだろう? りっぱに効力があるかしら? 」と問うてみることだ。とれはー種のショック療法で、これであな

あなたが〃オドロキ島〃とよばれる遠い楽園から、ことに住まないかと招きをうけたとしよう。あなたはこのアイディアがひどく気に入って、渡航の準備をする。その小さな島がどんなところだか知らないから、とにかくあ

衣類、家具類、さらに自動車まで船に積んで出航する。

ところが着いてみると、ッオドロキ島〃は文字どおりオドロキであった。道路はない、ただ美しい

椰子の木の並んだ小径がいくつかあるだけで、自動車などはいらないのだ。空気は澄んで香わしく新鮮そのものである。衣類は薄ー枚で足りる。あなたは用意した持物ー切が無用だと分る。この小島の現実はあなたの空想し

これがわれわれの問題である。われわれはあるがままの姿では行かず、こうでなければならぬと思う姿で行く。不注意にもそれが事実だとわれかれの思う無用のアイディア群で、われわれ自身をしばりあげる。

リアリティを新しい驚異たらしめるのではなく、リアリティがわれわれの習慣的な考え方に合致すべきだとわれわれは言い張る、かくてー切を台なしにしてしまうのである。

あなたと私はこうした誤ちは犯したくない。われわれは受容性を欲するのだ。われわれは、在るがままになりたいのだ。理論、立場、権力、虚栄、空想、幻想などはなしでいきたいのだ。ー切を所有せずにいきたいのだ。そ

ここにあなたが直ちに受容できる、従ってすぐに行動へ移れる、珠玉のアイディアを掲げておこうー

宇宙的理解の眼をとおして見るならば、あなたの過去に起こったどんな不幸も、まったく起こらなかったと同じことである。

Revision #2
Created 17 October 2024 08:08:11 by ゆう
Updated 27 October 2024 05:49:59 by ゆう